

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス デイジー		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自己決定と自己肯定感の醸成。児童の「やりたい」という意欲を尊重し、プログラムの企画段階から参画することで、自立心と自信を育てている点。	意思決定の支援と合意形成のプロセス。個別の聞き取りに加え、児童同士のミーティングを実施。意見の対立も「学びの機会」と捉え、職員が伴走している。	ピアサポートの促進。意見調整のプロセスを社会生活技能訓練の一環として構造化し、他者への配慮や妥協点の見出し方を経験として蓄積させる。
2	実社会での汎用的な適応力の育成。事業所内にとどまらず、公共交通機関や外部施設の利用を通じて、生きた社会経験を提供している点。	スモールステップでの社会参加。買い物や外食体験を通じ、マナーや金銭管理、公共ルールの遵守を実際の場面で反復して練習している。	地域連携の深化。訪問先との事前調整を進め、地域との自然な交流機会を創出。事業所への理解を広める啓発活動も兼ねていく。
3	将来の自立に向けた生活スキルの習得。挨拶・整理整頓などの基礎習慣から、マナー・モラルといった社会規範までを、遊びを通じて自然に身につけている点。	視覚支援とゲーミフィケーション。動画やホワイトボードを活用した視覚的な情報提示(構造化)を行い、クイズ形式などで意欲的に学べる環境を整えている。	家庭との連携強化。事業所で習得したスキルを家庭でも再現できるよう、保護者向けに情報を共有し、定着を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	防災・危機管理情報の周知不足。訓練は実施しているが、保護者との危機意識の共有や、緊急時の具体的なアクションの伝達が不十分である。	情報伝達手段の単一化。連絡帳・対面で口頭での報告に頼ってしまい、情報の重要度に応じた多角的な発信(視覚的な共有など)が不足している。	「見える化」による安心の提供。専用アプリでの写真配信に加え、書類での「防災フィードバック」を実施。保護者様に安心いただける情報伝達を行い、いただいた声を訓練計画に反映させる。
2	静止環境(クールダウンスペース)の質。スペースの制約上、静養場所と活動場所が近接しており、感覚過敏のある児童への配慮について検討を続けている。	環境設定の構造化の限界。既存の配置では音や視線の遮断が不完全であり、児童一人ひとりの特性に合わせた「安心できる居場所」の提供に改善の余地がある。	物理的・時間的な環境調整。パーティションや遮音材の導入、または活動時間のズラしによる静穏な時間の確保など、ソフト・ハード両面で環境を再構築する。
3	身体的発達支援の専門スキルの不足。情緒面・行動面の支援に比べ、粗大運動や微細運動など、身体機能へのアプローチの専門性を高める必要がある。	障害特性への理解に注力していた反面、理学療法や作業療法の視点を取り入れた運動プログラムの知見については不足していた。	専門知識を付けるための勉強会を行うこと。遊びの中に機能訓練の要素を取り入れる。